

製造

## 倉庫に保管している音響機器を定期処分

事例内容 その他

## 複数の倉庫を3か月に1度訪問して不要品を定期回収処分

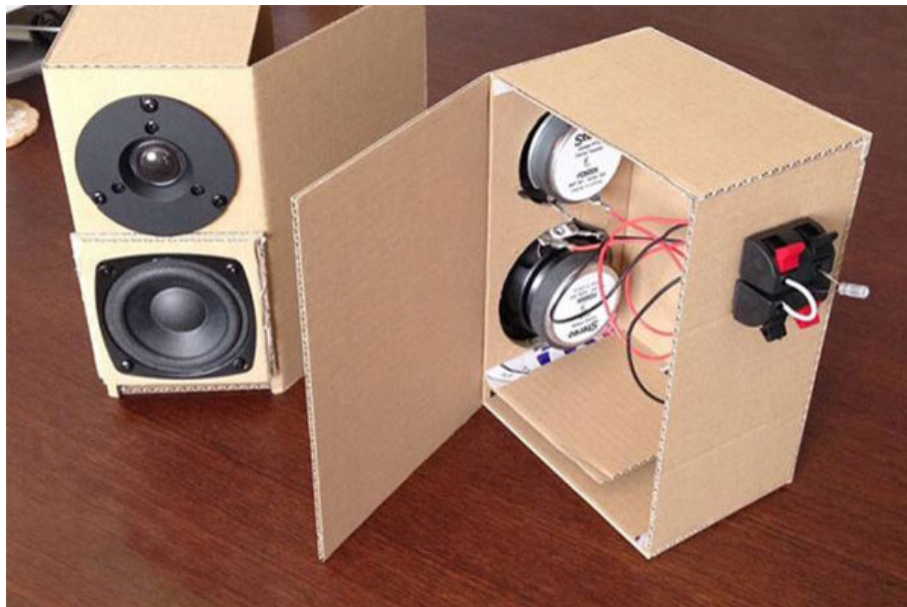
## 検討課題

主に音響機器を製造している企業様。

不要になった音響機器を複数の倉庫に保管していましたが、試作品も含んでいるため処分時にはすべてを廃棄する必要がありました。

商品化した後には不要となる試作品含めたアイテムが各倉庫に増え続けていくため、定期的な処分が必要でした。

市場価値のある什器類は鉄資源として買取什器類も処分



廃棄処理が必要な物は安全にマニフェスト処分し、什器などは鉄資源としてマテリアル買取

## 解決

不要になった試作品や製品以外にも、音響機器の棚や机など什器類も多く、処分費用を抑えるために、棚や机などの什器などは鉄資源としてマテリアル買取し、処分費用（物流・撤去作業・廃棄処分）を軽減いたしました。

外部に出してはいけない試作品等の音響機器類は、マニフェストを発行した上で安全に廃棄処分。定期的に各倉庫から撤去処分して物を滞留させないように3か月に1度回収してご支援させていただきました。

## &lt;実施内容&gt;

- ・買取（什器リユース買取、マテリアル買取）、廃棄の一括処分。
- ・マニフェストを発行した安全な廃棄処分。
- ・分業作業（搬出作業員、解体はお客様）する事でコスト削減。  
倉庫のため搬出資材（パレット、ハンドリフト完備）が揃っており、社員様側と作業を分担することで費用を更に削減。

- ・現地で商品の分別（買取、廃棄）及び積み込みから運搬。
- ・作業4日間。総計約45t（廃棄24t、マテリアル買取16t、買取什器4t車2台分）

工程管理により当初は5日間工程であったが4日間で完了いたしました。  
倉庫内にある処分物のすべてを廃棄せずに買取も入る事で処分費用を削減させ、廃棄処理が必要な物は安全に処分させていただきました。



不要となるオーディオデスクなども処分 3つの倉庫から定期回収

## ポイント

音響機器の廃棄処分

3か月に1度の定期回収

什器類はマテリアル買取

マニフェスト発行